

根来山げんきの森倶楽部

令和7年7月作業日誌

活動日…令和7年7月20日(日)9時分30〃

天気…晴れ 倶楽部員…54人

うるし谷整備

山口 俣

ウルシ谷活動日の始まりは倒木整理です。

6人全員で枯れて倒れたコナラ、それに巻き込まれて横になったアラカシとツルなどを片付けました。場所はうるし谷の一番奥で、元々西展望広場近くに出る山道があった場所です。

チェーンソーなしでノコギリ、ナタ、カマでの手作業なので日陰でしたが汗びっしょりになりました。

途中、Nさんからの差し入れで一息つきましたが、お昼までみなさん一生懸命でした。ごくろうさまでした。

2/3くらい整備したところで終わり、今回はチェーンソーを持って北の作業になります。

午後は4人での作業。二人は草刈り機で、残り二人は杭打ちなどの作業や別の場所の切った丸太の整理などを行いました。これは太い丸太なのでかなりの力仕事だったので力持ちのSさんをお願いしました。彼は元気いっぱいです。

ウルシの根元の雑草やツルも取りました。その後、応援に来てくれた2名の女性も一緒になってその作業を続けました。

暑い一日でした。



炭出し

福田 良輔

ここで作られる炭は、炭材のカシやコナラをはじめ燃料になる木材もすべて園地内で調達され、出来上がった炭は、倶楽部の貴重な自主財源の一翼を担っています。

この日は、最年少は中学1年生から年配者まで10数人が従事。午前中、先月の作業日に仕込んだ炭を窯から取り出し、神戸の珈琲焙煎会社への出荷用に10センチ余りにカット後10キロずつ袋詰めしました。全部で25袋(250キロ)製造しました。午後は新たな炭材を窯へ詰める作業を行いました。

この日は快晴そして無風。炭焼き作業場はすり鉢状の谷底にあり……

『暑い、ムチャクチャ暑い!』

ノコギリでカットする炭から巻き上がる粉塵が汗で顔にへばりつきます。午前中の作業が終わったとき、作業員の顔は、よく言えば歌舞伎役者の隈取り、悪く言えば白浜から居なくなったパンダ顔状態でした。しかし、谷底を渡る一陣の涼風と炭のカット時に響くキーンと澄んだ音に癒やされ、一瞬、暑さを忘れるときもありました。



冷や汁作り

萬賀 伊津子

炎天下の定例活動なので冷や汁を作ろうということで初めての冷や汁づくりに挑戦。材料はささみ、豆腐、キュウリ、ゴマ、大葉、みょうが、生姜、みそ、だし汁。

大葉やみょうが、キュウリなど家にある方が提供してくれて助かりました。

材料を切っただし汁に入れるだけなので作業はとても簡単なのですが、作る分量が多いので味の調整に苦労しました。鰯の干物を入れるとよりおいしかったのですが、鶏ささみにしたのでちょっと淡泊になりすぎたかなと反省です。デザートはいつものスイカ。少しでもクールダウンの役にたてたかしら?

54名分を3名で作りました。



7月の暑い一日での作業だったので少しでも涼しいだろうともみじ谷から青木新道に続くヒノキ林の間伐を行いました。

チェーンソーを使えるメンバーが何人かいて、林内作業車に手慣れたメンバーもいたのでけっこう太くて長いヒノキでしたが5本引っぱり出すことができました。

この場所には水道と電気を引いたパイプがあるのでまずそれに被害がないよう十分注意しながら、伐採予定木を決め、伐倒方向は最も安全に倒れそうな奥向きに倒すことにしました。

倒す方向に滑車を取って、林内作業車のウインチで引きながら倒しました。けっこう茂った森だったのでなかなか倒れずに苦労した木もありましたが、なんとか午前中に伐倒予定の5本を倒し、午後は引き出し作業です。

根元の直径が40cm以上もあるヒノキもあって引っ張り出すにも一苦労しましたが、4mから8m程度の長さに玉切した丸太9本を道端まで引き出してこの日の作業は終了。

この丸太は後日、森の広場まで運び上げておきました。道普請で道沿いに埋め込んだり、ログソール用、炭のカット用作業台などに活用します。



梅雨時に色とりどりの花を咲かせ、名残の色を残すだけとなったあじさい広場のあじさいが、来年も花を咲かせるよう、剪定を行いました。参加者は8名。まずはリーダーから、「一般的には1節目、2節目で切るが、そこに拘らず目標は樹形80cm程度の丸形、扇形に整えること、花をきれいに落としてしまうこと」と指導をいただき、それなら大雑把な性格の私でもなんとかできそう！と剪定開始。

いい感じに樹形が整ってくるとこちらも気持ちいいものです。リーダー曰く、下の方(地面付近)の徒長した枝も切った方が風通しが良くなるとのことで、確かにリーダーの手にかかったあじさいはすっきり、さっぱり、涼し気でした。

これだけ切ってもまたすぐ新芽が出て、冬を越して来年また花が咲くのだからすごいね、と皆でアジサイの生命力に感心しました。この暑い夏をなんとか乗り切って来年もかわいい花を見せてほしいものです。



事務局から

先月の夜の生き物観察会は暑い夜でしたがたくさん子どもたちが集まって楽しそうに過ごしてくれました。

特に珍しい生き物や大きな動物を見られるわけでもなく、夜の森を歩き回るだけの観察会なのですが、普段訪れることのない真っ暗な森を歩くことが子どもたちにとっては特別な夜なのでしょう。

講師を務めてくれた有本さんと中村さんも子どもたちのあしらいが上手で退屈させない話術で子どもたちを惹きつけてくれていました。

子どもたちにとって何でも教えてくれる先生が身近にいることもうれしいのか、小さな虫を見つけては目をキラキラさせながら先生に教えてもらいに行っていました。

夏休みのはじめ、子どもたちにとっての特別な観察会の夜でした。

岡田 和久